

ReBody WITH ES

地球環境と ともに



バイオマス
No.200296



ReBody WITH ES とは

▶ 環境性

食品工場から排出される卵殻を25%配合した環境配慮型の全く新しいマネキンです。バイオマス素材である卵殻を使用することで化石燃料削減に貢献します。財団法人日本有機資源協会のバイオマスマーク取得済み(No.200296)です。

▶ 抗菌

抗菌性試験により通常のHDPEに比べて抗菌活性値が、黄色ぶどう球菌の場合3.6。大腸菌の場合3.1。これにより、強力な抗菌効果が実証されました。(2021.6.21 カンテストセンターによる試験結果。)

細菌の増殖割合が100分の1以下(抗菌活性値2.0以上)である場合、その製品に抗菌効果があると規定しています。

抗菌製品とは、細菌の増殖を抑えることができるので、表面を衛生的に保つことができます。細菌の増殖を抑制するだけで、皮膚などの常在菌に対する作用はほとんどありませんし、自然界の微生物に影響を及ぼすこともありません。

▶ ストーリー性(衣食住を通じた循環)

我々が大好きな卵(食)からファッションを支えるマネキン(衣)をつくり、広め、環境(住)を守り続けていく思いをこの商品に込めました。

▶ 消臭効果(デリケートな売り場での活用)

卵殻は水素イオン濃度を表すpHが高く、短時間での殺菌・消臭が可能。卵殻を熱可塑性樹脂に配合した「卵殻配合樹脂」は、消臭効果があります。

臭気の原因の消臭性(24時間減少率)

アンモニア:54.5% 硫化水素:71.3% 酢酸:85.5%
トリメチルアミン:39.0% イソ吉草酸:97.6%

(数値には環境も影響するため、絶対的ではないのでご注意ください。)

開発背景

01 アパレル業界の環境対応の加速

各業界での環境対応が進む中、副資材であるマネキンの環境対応も必要と考えました。

02 国内バイオマスプラスチックの不足

環境対応で使用される主な代替材料は、輸入に頼っている植物由来のバイオポリエチレン。世界中で環境対応が進む中、調達が困難となり、国内調達可能なバイオマス素材の活用が急務となっています。

03 何故卵殻か？

日本は卵の消費量世界第二位(年間330個/人)の卵の大好きな国民です。卵殻は年間27万トン排出されており、多くは廃棄されているのが現状です。卵殻は食品廃棄物削減やバイオマスプラスチック調達の課題を解決する「もったいない資源」であると考えております。

